

令和 4（2022）年度マガレイ北海道北部系群の 管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 4（2022）年度北海道ブロックソウハチ・マガレイの管理基準値等に関する研究機関会議において、令和 5 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 4（2022）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2022-ABCWG02-01）」で示された 1C 系資源の管理規則の考え方をを用いる。なお、具体的な漁獲管理規則については今後検討を進め提案する。

管理基準値案

- ・ 目標管理基準値は、最大持続生産量 MSY を実現する資源量（Bmsy）。令和 4（2022）年度の資源評価において Bmsy は 5,448 トン（90%信頼区間は 3,493～8,578 トン）。
- ・ なお、本系群の最近年（2021 年漁期）の資源量は 6,901 トン（90%信頼区間は 4,233～11,345 トン）である。
- ・ 最大持続生産量 MSY を実現する資源量等の値は資源評価の更新にあわせて更新される。

その他

- ・ 資源量と余剰生産量の関係（余剰生産量曲線）と現状の漁獲量は、平衡状態を仮定しない余剰生産モデル（プロダクションモデル）において、3 つの基本モデルから得られた推定値を平均した値を代表値とし、90%信頼区間としては 3 つの基本モデルでそれぞれ推定された下側 5%点の小さい方の値と、上側 5%点の大きい方の値である。
- ・ 目標管理基準値案での資源量（Bmsy）で期待される漁獲量（MSY）は 2,767 トン（90%信頼区間は 2,270～3,350 トン）、目標管理基準値案を達成する漁獲圧（Fmsy）は、現状（2021 年漁期）の漁獲圧の 2.82 倍（90%信頼区間は 1.82～4.58 倍）、2017～2021 年漁期の平均の漁獲圧の 2.25 倍である。
- ・ 余剰生産モデルを用いた資源量推定は R4（2022）年度からの初の試みであり、事前分布の仮定や推定パラメータの妥当性の検討、基本モデルの絞込など、手法の改善と推定結果の精査を継続的に行っていく必要がある。